

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・基本的な生活習慣を身につけ、さまざまな課題を克服するチャレンジ精神を持ち、主体的に判断・行動できる人材の育成
- ・「自分で未来に近づこう」をモットーに、物事を多角的に観察、検証するなど積極的な探求心を抱き、自ら思考、判断、行動、表現できる人材の育成
- ・多様な人びとと協働し、新たな価値を創造しながら持続可能な社会の実現に向け、他者と積極的に意思疎通を図ろうとする社会性及びバランスのとれた国際感覚を持った人材の育成

2 中期的目標

- 1 考え抜く力を育む（白稜シップ1）
 - ・生徒一人ひとりの課題に即した学習支援を実現するため、組織的な取り組みを実践する。
 - ・自らの課題を見つれたり、考えたり、学びを深めることができるよう主体的・対話的な学びを推進。
 - ・学校設定科目「リーディングスキル基礎・応用」を通して、学習の基礎となる「読んで・聞いて・見てわかる力」を育む。
 - ・研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通じて教員の授業力向上を図る。
- 2 人と協働する力を育む（白稜シップ2）
 - ・社会の一員としての必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取り組みの推進。
 - ・ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携等の取り組みにより、生徒の自己肯定感を高める。
 - ・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHRでの学びや体験を通して「他者の立場にたって考える」などの社会的素養を育む。
- 3 踏み出す力を育む（白稜シップ3）
 - ・すべての教育活動を通じて、生徒が自ら目標を選択、決定し、その達成に向けて行動する力を育む。
 - ・外部人材の活用を推進し、自らの将来について積極的に考える意識を高められるよう工夫する。
 - ・職場見学やバイターン等の充実から社会への視野を拡充させ、生徒の経験則やSES（社会経済的地位）に関わらない進路実現を促進。
 - ・学校設定科目の学びから、多様性の受容を進め、未知の状況に対しても恐れず対応できる思考力、判断力を育む。
- 4 創造する力を育む（白稜シップ4）
 - ・すべての教科で生徒が自ら考え発表する機会を増やし、豊かな表現力を育む。
 - ・身につけた知識や情報を活用し、企画・制作・発表など学びに向かう力や、新しい考えや価値を生み出す力を育む。
 - ・清掃ボランティア活動や地域行事への参画を通じて、地域との交流を深める。
- 5 4つの力を育む基盤となる、安心・安全な学校づくり
 - ・生徒の実態を関係者間で情報共有し、課題のある生徒を早期に発見・対応することで不登校や中途退学を減少させる。
 - ・外部人材と連携した生徒相談・支援体制の充実に取り組む。課題早期発見事業として居場所（「わたしカフェ」）の取り組みも活用。
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門人材や関係機関と協力し、「地域社会とのかかわり」を重視した教育活動を推進する。
- 6 学校の運営体制
 - ・カリキュラムマネジメントに基づき、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを充実。
 - ・「大阪府教員等研修計画」を参考・活用し、教職員が成長できる体制を構築する。
 - ・本校の特色や状況を分析し、長時間勤務縮減に向けた取り組みにつながる組織の構築。
 - ・充実した教育活動が展開できるよう「衣・食・住」を意識した校内快適空間の創造。
- * 令和9年度目標
 - ・進路決定率を全国平均以上（R4 92%、R5 87%、R6 87%）
 - ・学校教育自己診断における「白稜シップ」の肯定率平均を75%以上
 - （「考え抜く」 R4_63% R5_68% R6_71% 、「協働」 R4_76% R5_77% R6_80%
 - 「チャレンジ」R4_77% R5_80% R6_84% 、「創りだす」R4_66% R5_70% R6_72% ）
 - ・就職1次内定率80%以上を維持（R4 84.1%、R5 89.8%、R6 89.0%）
 - ・大学入学共通テストの受験者3名（R4 1 R5 0 R6 1）
 - ・一般入試による大学合格者数3名（R4 3 R5 1 R6 2）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【結果】 令和7年度に実施した学校教育自己診断について、生徒・保護者・教職員の各回答結果を令和6年度と比較したところ、本校が生徒にとつ	【第1回 学校運営協議会】 開催日：令和7年7月28日 1 令和7年度「学校経営計画」について

て安心して通える学校として一定の評価を得ている状況が、三者の結果から総合的に確認できた。 生徒自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の肯定的回答割合は、 R6：60.0％ → R7：61.9％（＋1.9 ポイント）と微増している。 また、「学校生活についての先生の指導には納得できる」では、 R6：59.4％ → R7：63.0％（＋3.6 ポイント）と改善が見られ、教職員の関わりが生徒に一定程度受け止められていることがうかがえる。 一方、「いじめについて困っていることがあれば先生に相談できる」では、 R6：83.2％ → R7：69.5％（▲13.7 ポイント）と大きく低下しており、「担任以外にも相談できる場所がある」についても R6：75.5％ → R7：68.6％（▲6.9 ポイント）と減少が見られた。 保護者自己診断では、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定的回答が R6：64.9％ → R7：67.6％（＋2.7 ポイント）と向上しており、家庭から見た学校生活の安定が一定程度評価されている。 また、「学校は子どもの状況をよく理解し、適切に対応している」とする回答も概ね前年度水準を維持している。 教職員自己診断においては、「生徒は安心して学校生活を送っている」「生徒理解に基づいた指導・支援が行われている」といった項目で、R6・R7ともに高い肯定的回答割合を維持しており、教職員自身が本校の支援体制に一定の手応えを感じている状況が読み取れる。 【 分析（成果と課題） 】 これらの結果から、本校の特色である生徒一人ひとりの背景や困り感を丁寧に受け止め、学年・分掌・外部機関が連携して支える体制は、一定の成果を上げていると評価できる。 生徒・保護者ともに「学校が楽しい」「安心して通えている」とする認識が維持・向上していることは、本校がめざす 「安心できる環境の中で自己肯定感を育み、社会で生き抜く力を身につけた生徒」の育成に向けた基盤が形成されていることを示している。 一方で、生徒自己診断における相談体制に関する数値の低下は重要な課題である。 教職員側が構築している支援体制が、生徒にとって「身近で、相談しやすいもの」として十分に認識されていない可能性があり、教職員の認識と生徒の実感との間にギャップが生じていることが考えられる。 また、生徒・保護者双方において、「学びが将来の進路や生き方につながっている」とする実感が大きく伸びていないことから、学習内容や教育活動の意義が、生徒自身の将来像と十分に結び付いていないという課題も浮かび上がった。 【 今後の改善の方向性 】 今後は、本校がこれまで培ってきた生徒理解に基づく支援体制と、安心・信頼を土台とした学校文化を一層発展させながら、「学びの実感」「相談のしやすさ」「将来への見通し」の三点を柱として、組織的な改善を進めていく。 ①相談・支援体制のさらなる充実を図る。 生徒自己診断において相談に関する肯定的回答が低下していることを踏まえ、担任や特定の教職員に支援が集中するのではなく、学年・分掌・教育相談・保健室・外部機関が役割を分担し、連携して支える体制を明確化する。 あわせて、支援の窓口や相談の流れを、生徒・保護者双方にとって分かりやすい形で「見える化」し、日常的な発信を通じて「困ったときに誰かにつながれる」という安心感の醸成を図る。 ②「学びの保障」と「学びの実感」を高める授業改善を進める。 基礎的・基本的な学力の定着を重視しつつ、生徒一人ひとりの到達度や興味関心に応じた指導の工夫を行い、小さな成功体験を積み重ねられる学習環境を整える。 また、評価方法やフィードバックの工夫を通して、生徒が「できるようになった」「成長している」と実感できる場面を増やし、学習に対する自己効力感の向上を図る。 ③「総合的な探究の時間」やキャリア教育を核として、学びと将来を結びつける取組を一層充実させる。 地域・企業・外部機関との連携を通じて、社会とのつながりを意識した探究活動を展開するとともに、教科の学びが進路や生き方にどのようにつながるのかを、生徒自身が言語化できる機会を設ける。 これにより、本校が育てたい生徒像である 「自ら考え、他者と協働しながら、社会の中で主体的に生き抜こうとする生徒」の育成を着実に進めていく。	令和7年度学校経営計画の概要および重点的な取組について説明し、共有した。 2 令和7年度使用教科用図書（教科書）の選定について 選定方針および結果について説明を行い、了承を得た。 3 スクールポリシーについて 本校のスクールポリシーについて説明を行い、教育活動の方向性を確認した。 4 学校の現状について 教職員の構成や在籍生徒数の推移、生徒の進路実績、外部連携やSNSを活用した魅力発信等の特色ある取組について報告した。 また、昨年度からの改善事項として、遅刻指導の見直しや内規の精査について説明した。 5 その他 （1）PTA会費および教育振興基金について 閉校までに計画的に活用する方針とし、食堂利用券の発行、朝ごはんプロジェクト、テーブルマナー研修、資格試験受験料補助等を実施していくことを説明した。 （2）閉校に向けて 地域とも連携しながら、閉校までの期間に様々な取組に挑戦し、良い形で学校を締めくくってほしいとの意見が出された。 （3）生徒の活動参観について 今回は文化祭に合わせて学校運営協議会を開催し、生徒の活動を直接見ていただく機会を設けることとした。 6 まとめ 今年度より運営委員会メンバーも出席し、学校・生徒のために何ができるかについて、建設的な協議を行うことができた。
	【第2回 学校運営協議会】 開催日：令和7年10月30日 1 白稜祭の視察について 白稜祭を視察し、生徒が明るく朗らかな雰囲気の中で、少人数ながらも工夫し創造しながら心から楽しんでいる様子を確認した。 生徒の柔らかな人間関係や、教職員が裏方に徹して生徒を支えている姿が印象的であり、学校全体として温かく落ち着いた雰囲気であることが高く評価された。 また、体育館でのライブや生活委員会の発表、泉尾工業をはじめとする企業展示など、地元企業との連携による取組が充実しており、生徒が来場者にフレンドリーに接する姿が特に印象深いとの意見があった。 一方で、このような良い教育活動が展開されている学校が募集停止となることを惜しむ声や、生徒および教職員の今後を案じる意見も出された。 今後については、1クラスの数や教員配置等、学校の仕組みを見直し、すべての生徒に必要な支援が行き届く体制づくりを進めるとともに、企業や行政との連携をさらに深め、特色ある取組を継続してほしいとの要望があった。 ⇒学校運営協議会委員の皆様にも学校行事の運営に参画していただき、閉校までともに盛り上げ、生徒をあたたく育てていくことを確認した。 2 令和7年度「学校経営計画」の進捗および今後の課題について 学校経営計画の進捗状況について報告を行い、今後の学校課題として、在校生に対する教育内容の確実な保障が重要であることを確認した。 特に、募集停止に伴う学校行事の縮小化については、生徒の学びや成長の機会が損なわれないよう、工夫と配慮が必要であるとの意見が出された。
	【第3回 学校運営協議会】 開催日：令和8年3月4日 本協議会では、令和7年度教育活動および学校教育自己診断の結果について報告するとともに、学校運営の成果と課題、今後の改善の方向性について協議を行った。 まず、教育活動および進路状況について説明した。令和7年度卒業生89名のうち就職希望者の内定率は100%となり、一般入試による大学合格者も出るなど、生徒一人ひとりの状況に応じた進路指導の成果が見られた。また、不登校や病気等の事情を抱える生徒に対しては、オンライン授業や通信教育を活用した柔軟な学習支援を行い、学びの継続と卒業につなげてきた取組について報告した。委員からは、全国的に就職内定率が低下する中で成果を維持している点について、生徒の実態に即した丁寧な進路指導の成果であり評価できるとの意見があった。また、「朝ごはんプロジェクト」や探究学習成果発表である「白稜アワード」など、生徒が成功体験を得る教育活動が自己肯定感の向上につながっている点についても評価が示された。 次に、学校教育自己診断の結果について説明した。生徒アンケートでは「学校に行くのが楽しい」とする回答が十分に高い水準には至っておらず、学校生活の充実に向けた取組が課題として示された。一方、保護者アンケートでは進路指導への評価は高いものの、学校行事への参加機会や情報発信の充実が課題として挙げられた。委員からは、単年度の数値のみでなく学年別の特徴や経年変化を整理することで課題がより明確となり学校改善につながるとの助言があった。また、否定的回答をした生徒や保護者への相談体制やフォローの仕組みを整理し、安心して相談できる環境づくりを進めることの重要性について意見が出された。 これらの協議を踏まえ、学校としては学校教育自己診断の結果を活用した課題の可視化と組織的な改善を進めるとともに、生徒理解に基づく支援体制の充実を図る。また、生徒が学校生活の中で達成感や自己有用感を実感できる教育活動を推進し、生徒一人ひとりが安心して学び成長できる学校づくりを進めていく。閉校までの期間においても、生徒の学びと進路保障を最優先とした教育活動を継続していくことを確認した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 考え抜く力を育む	(1) 学習活動の充実	(1) ア. グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒の興味関心を高める主体的、対話的で深い学びを推進。 イ. 1 人 1 台端末を用いた授業の工夫やオンライン授業の組織的な体制作りに取組み、学びの保障を推進。 ウ. 「リーディングスキル基礎・応用」の授業を通して、読解力の向上を図る。	(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 85%以上[86%] イ. 生徒向け学校教育自己診断の「ICT 機器の授業での活用」の肯定率 85%以上[82%] ウ. 「リーディングスキル」テストの偏差値が上昇した生徒の割合 75%以上 [73. 5%]	ア. 生徒向け肯定率 91% (◎) 全員で卒業することができるよう、生徒の学びに寄り添い支援していく。 イ. 生徒向け肯定率 92% (◎) ウ. 偏差値上昇割合 76. 1% (○)
	(2) わかる授業、充実した授業づくり	(2) ア. 授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行い、授業改善につなげる。 イ. 教育センター主催研修や他校の研究授業および授業力向上研修への参加に積極的に取組み、授業改善につなげる。 ウ. 校内研究授業を実施し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことで、各教員の授業力向上を実現する。	(2) ア. 授業アンケート「興味関心が持てた」の肯定率 85%以上 [86%] イ. 他校の授業見学や授業力向上研修への参加人数 5 人以上 [5 人] ウ. 研究授業の実施を 2 回以上[3 回] 1 生徒向け学校教育自己診断で、「授業や行事を通して、今までよりも粘り強く考えるようになった」(白稜シップ 1) の肯定率 70%以上 [71%]	ア. 授業アンケート肯定率 85. 2% (○) イ. 他校や研修への参加 18 人 (◎) ウ. 研究授業回数 3 回 (○) (白稜シップ 1) 肯定率 72% (○)
2 人と協働する力を育む	社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	ア. 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、「特別活動」などを通じて、他者と協働する活動を充実させ、その力を育む。また、「いじめ問題」「SNS との関わり方」など、人権に関する研修を行い、その意識を高める。 イ. より多くの生徒に、地域と連携した活動を体験させることにより社会の一員であることの自覚と自尊感情を育成する。 ウ. 文化祭、体育祭など学校行事、校内美化、校内緑化等の委員会の活動および部活動の充実を図る。	ア. 生徒向け学校教育自己診断で「人権の取組み」の肯定率 80 % 以上 [86%] イ. 地域と連携した活動等の実施 3 回以上 [3 回] ウ. 学校行事の肯定率 75% 以上 [77%] 2 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事では、目標に向かって、人と協力することがたくさんある」(白稜シップ 2) の肯定率 80%以上 [80%]	ア. 生徒向け肯定率 82% (○) イ. 連携した活動 23 回 (◎) 大正区・大正警察・大正消防署・ロータリークラブ・大正ミュージックフェスティバル (EXP0) ・大学・幼稚園等 ウ. 生徒向け肯定率 87% (◎) (白稜シップ 2) 肯定率 85% (◎)
	学びを人生や社会に生かそうとするキャリア教育の充実	ア. さまざまな学習や 2、3 年次の科目選択とそのガイダンスを通して、自らの目標を設定させ、進路実現に向けた取組みを進める。 イ. 職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現につなげる。また資格取得にも積極的に取組む。 ウ. 外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みを充実させる。具体的には上記のような進路行事の回数を各学年 5 回以上の実施に取り組む。	アイ. 生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率 80%以上 [84%] ウ. 年間の各学年進路行事 5 回以上 [1 学年 5 回、2 学年 5 回] 3 生徒向け学校教育自己診断で「先生は、新しいことや少し難しいこと、苦手なことなどのチャレンジすることを応援してくれる」(白稜シップ 3) の肯定率 80%以上 [84%]	アイ. 生徒向け肯定率 90% (◎) ウ. 17 回 (◎) 1 学年 6 回 (インターンシップ・分野別・ミュージカル・講演会) 2 学年 7 回 (インターンシップ・分野別・講演会・合同説明会) 3 学年 4 回 (インターンシップ・分野別・講演会) (白稜シップ 3) 肯定率 90% (◎) 今年度、初めて白稜アワードをおこない、全員が新しい試みに挑戦した。その過程で教職員が発表内容を一緒に考えたり、練習したりというサポートをおこなった。
3 踏み出す力を育む				

府立大正白稜高等学校

4 創造する力を育む	（１）学習活動における発表機会の充実 （２）地域との交流	（１） ア. 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、授業における生徒の発表機会等を充実させる。 イ. 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」などで、発表会等を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む。 ウ. 土曜日に実施予定の「発表大会（文化祭）」を継続して行う。 （２） ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業などさまざまな機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を創出する。	（１） アイ. 生徒向け学校教育自己診断の「授業では、グループ活動や実験・実習、発表など様々な取り組みの工夫がある」の肯定率 85%以上 [86%] ウ. 発表大会の肯定率 75% 以上[82%] （２） ア. 年間５回以上の交流機会を設ける。[５回] 4 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事を通して、何かを創ったり、自分の考えを人に伝えることが、以前より楽しく感じるようになった」（白稜シップ４）の肯定率 70%以上 [72%]	（１） アイ. 生徒向け肯定率 91%（◎） ウ. 肯定率 86%（◎） （２） ア. 24 回（◎） 大正区・大正警察・大正消防署・ロータリークラブ・大正ミュージックフェスティバル（EXP0）・大学・幼稚園・ものづくりフェスタ・地域と連携した 880 万人訓練・社会福祉協議会でのイベント協力等（白稜シップ４）肯定率 65%（△） 白稜アワードでも全員が発表をおこない、成果を出していた。実際の活動と自己診断の結果が一致するよう工夫していく。
5 安心・安全な学校づくり	生徒理解の促進と相談体制の確立	ア. 新規感染症等も含め防犯・防災対応能力の向上に努めながら未来予測可能な対応を講じ、生徒の安心・安全の確保に努める。 イ. 生徒個々の課題に対応する学校の体制（相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど）を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」（居場所型）を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。 ウ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。 エ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。	ア. 生徒向け学校教育自己診断で「学校に行くのが楽しい」の肯定率 70%以上 [67%] イ. 相談体制のさらなる充実に努める。 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率 65%以上 [76%] ウ. 中学校訪問、家庭訪問を効果的に実施できたか。 ・中学校 10 校[３校] ・家庭訪問 20 件[25 件] エ. 支援委員会の効果的活用 ・年間３回以上[５回]	ア. 生徒向け肯定率 67%（△） 朝ごはんプロジェクトや校外での体育祭など生徒のニーズに応じた企画を計画・実施したが肯定率は上がらなかった。次年度は生徒と教職員が協働して企画・実施していきたい。 イ. 生徒向け肯定率 80%（◎） ウ. 中学校 １校 家庭訪問 8 件（△） エ. 年間 20 回（◎）
6 学校の運営体制	学校改革の推進	ア. 「チーム学校」にとどまらず、地域を含む外部との連携を強化し、進学・就職に係るインターンシップ等も積極的に取り入れながら新教育課程の実施に努める。 イ. 計画的な教職員研修の実施 人権教育委員会を中心にした１年間を見通しての研修の企画を早めに立案し、効果的な実施に努める。 ウ. 学年が連携した学校運営となるよう首席がチーフとなって各学年主任との会議を密に行い、情報共有に努める。 エ. 「働き方改革」に積極的に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動大阪モデルのガイドラインに沿った取組みを徹底する。 オ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実に努める。 カ. キ. 学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる。特に学校説明会については個別対応も臨機応変に実施する。 ク. ホームページの更新を定期的に行い、行事予定や進路実績（５期生）など、常に最新の情報の発信に努める。 ク. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。また、PTA 活動の一層の活性化を図る。	ア. インターンシップ関係の取組みを年１回以上行う。[２回] イ. 人権や生徒の安全に係る研修を年間３回以上実施できたか [４回] ウ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率 90%以上 [97%] エ. 時間外勤務月一人当たり平均を 30 時間以内とする [22.5 時間] オ. １年間に３件以上の改善[４件] カ. 学校説明会 3 回以上 [３回] 中学校訪問 1 回 [１回] キ. ホームページ内に SNS を活用した新たなコンテンツを構築する。 ・１項目以上[0 項目] ク. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数 350 名以上 [336 名]	ア. 5 回実施（◎） →１学年 2 回 2 学年 2 回 3 学年 1 回 イ. 年間 6 回（◎） →人権、熱中症、A E D、交通安全、教育相談関係、性の講演会等 ウ. 教職員向け肯定率 100%（◎） エ. 17.2 時間（◎） オ. 9 件（◎） →体育館雨漏、防火扉、被服室水漏、天井ボード、L E D 交換、防球ネット、貯水槽、クールダウンルーム カ. 説明会 0 回 中学校訪問 1 回（○） 閉校に向けた学校開放 1 回（○） キ. 2 項目追加（○） H P の充実とともに SNS の活用開始 ク. 来校保護者数 354 名（○） →体育祭 127、文化祭 198、公開授業 29